

表 6.4-5(7) 捕獲移動の実施計画概要 ()

1. 移殖工事概要

対象動物を含む生息環境(落ち葉)を移殖適地へ移設する。
※本種は乾燥の影響を受けにくく適度に湿り気が保たれている林床環境に生息する。本種は肉眼での確認が困難な微小貝類であるため、生息環境である「過去の確認地点と、乾燥の影響を受けにくく適度に湿り気が保たれている林床環境」の林床に堆積した落ち葉や小枝を一緒に麻袋や土嚢袋に詰め、落ち葉と共に移殖対象動物を捕獲して移殖する。

2. 移殖の手順

1) 現地補足調査の実施(移設対象の生息環境場所の特定)

移殖前に、移殖工事数量の詳細を明確にするため、以下の条件(①～②)に留意し現地補足調査を実施する。具体的には本種の生息環境を探索し、事業地内における移殖対象箇所(生息環境移設の対象区域)とその面積を把握する。

①乾燥の影響を受けにくく適度に湿り気が保たれている林床環境をもつ森林、スダジイ林やスダジイ林に近い二次林などの比較的自然度の高い森林を重点的に調査する。
※本種は乾燥の影響を受けにくく適度に湿り気が保たれている林床環境、スダジイ林やスダジイ林に近い二次林などの比較的自然度の高い森林の林床落葉下に生息する。

②移殖候補地の選定調査

※事業地より影響範囲50m外側において、本種の生息環境箇所を探索し移殖地を決定する。この場合、移殖後の結果について、様々な要因からのリスクを分散するために、複数箇所を抽出する。

2) 移殖対象地における採取と運搬

1)で把握した生息環境の林床に堆積した「落ち葉」を麻袋や土嚢袋等に入れ移殖適地へ運搬する。

3) 移設先での敷設

移殖先において運搬した容器から対象動物を含む落ち葉を敷設する。

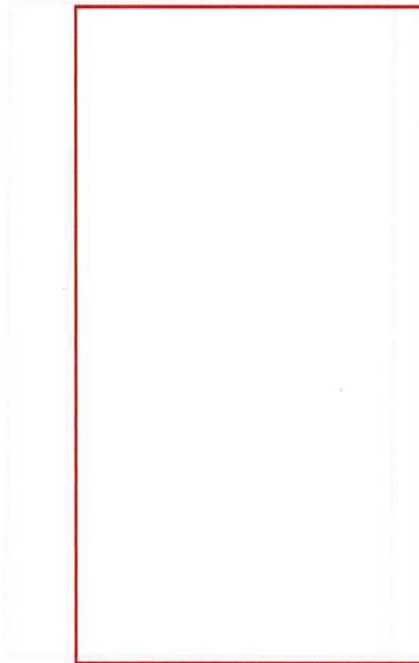


写真: () の生態・生息環境

表 6.4-5(8) 捕獲移動の実施計画概要 ()

1. 移殖工事概要

対象動物を含む生息環境(落ち葉)を移殖適地へ移設する。

※本種は乾燥の影響を受けにくく適度に湿り気が保たれている林床環境に生息する。本種は肉眼での確認が困難な微小貝類であるため、生息環境である「過去の確認地点と、乾燥の影響を受けにくく適度に湿り気が保たれている林床環境」の林床に堆積した落ち葉や小枝と一緒に麻袋や土嚢袋に詰め、落ち葉と共に移殖対象動物を捕獲して移殖する。

2. 移殖の手順

1) 現地補足調査の実施(移設対象の生息環境場所の特定)

移殖前に、移殖工事数量の詳細を明確にするため、以下の条件(①～②)に留意し現地補足調査を実施する。具体的には本種の生息環境を探索し、事業地内における移殖対象箇所(生息環境移設の対象区域)とその面積を把握する。

①乾燥の影響を受けにくく適度に湿り気が保たれている林床環境をもつ森林、スダジイ林やスダジイ林に近い二次林などの比較的自然度の高い森林を重点的に調査する。

※本種は乾燥の影響を受けにくく適度に湿り気が保たれている林床環境、スダジイ林やスダジイ林に近い二次林などの比較的自然度の高い森林の林床落葉下に生息する。

②移殖候補地の選定調査

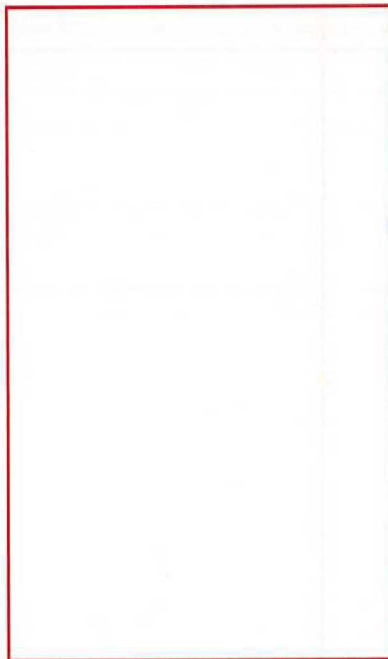
※事業地より影響範囲50m外側において、本種の生息環境箇所を探索し移殖地を決定する。この場合、移殖後の結果について、様々な要因からのリスクを分散するために、複数箇所を抽出する。

2) 移殖対象地における採取と運搬

1)で把握した生息環境の林床に堆積した「落ち葉」を麻袋や土嚢袋等に入れ移殖適地へ運搬する。

3) 移設先での敷設

移殖先において運搬した容器から対象動物を含む落ち葉を敷設する。



成貝の特徴

写真 () の生態・生息環境

表 6.4-5(9) 捕獲移動の実施計画概要 ()

1. 移殖工事概要

対象動物を含む生息環境(落ち葉)を移殖適地へ移設する。
 ※本種は乾燥の影響を受けにくく適度に湿り気が保たれている林床環境に生息する。本種は肉眼での確認が困難な微小貝類であるため、生息環境である「過去の確認地点と、乾燥の影響を受けにくく適度に湿り気が保たれている林床環境」の林床に堆積した落ち葉や小枝を一緒に麻袋や土嚢袋に詰め、落ち葉と共に移殖対象動物を捕獲して移殖する。

2. 移殖の手順

1) 現地補足調査の実施(移設対象の生息環境場所の特定)

移殖前に、移殖工事数量の詳細を明確にするため、以下の条件①～②)に留意し現地補足調査を実施する。具体的には本種の生息環境を探索し、事業地内における移殖対象箇所(生息環境移設の対象区域)とその面積を把握する。

①乾燥の影響を受けにくく適度に湿り気が保たれている林床環境をもつ森林、スダジイ林やスダジイ林に近い二次林などの比較的自然度の高い森林を重点的に調査する。
 ※本種は乾燥の影響を受けにくく適度に湿り気が保たれている林床環境、スダジイ林やスダジイ林に近い二次林などの比較的自然度の高い森林の林床落葉下に生息する。

②移殖候補地の選定調査

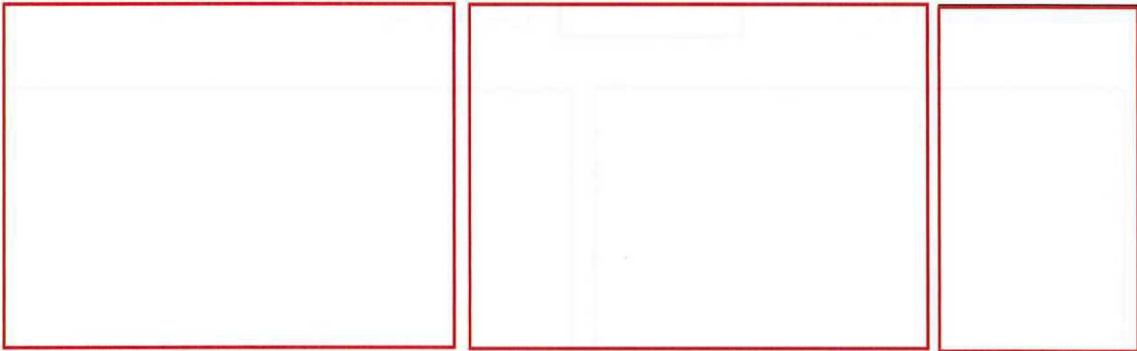
※事業地より影響範囲50m外側において、本種の生息環境箇所を探索し移殖地を決定する。この場合、移殖後の結果について、様々な要因からのリスクを分散するために、複数箇所を抽出する。

2) 移殖対象地における採取と運搬

1)で把握した生息環境の林床に堆積した「落ち葉」を麻袋や土嚢袋等に入れ移殖適地へ運搬する。

3) 移設先での敷設

移殖先において運搬した容器から対象動物を含む落ち葉を敷設する。



移動中の個体

成員の特徴

写真 () の生態・生息環境

表 6.4-5(10) 捕獲移動の実施計画概要 ()

1. 移殖工事概要

本種の生息環境であるやや自然度の高い森林の枯れた木の樹皮下や、樹皮の隙間を中心に、見つけ採りによる捕獲を可能な限り実施する。また、朽ち木と落ち葉の環境移設を実施する。
 ※本種は、森林に生息し、枯れた木の樹皮下や、樹皮の隙間などに生息する。また、冬期には活動がにぶり、朽ち木や落ち葉中に潜んでいる可能性もある。稚貝・幼貝は落葉下にも生息する。このため、朽ち木については () の朽ち木移設と同様の方法により移殖適地に移設する。さらに、落ち葉については、微小陸産貝類における環境移設と同様な手法により実施する。

2. 移殖の手順

1) 現地補足調査の実施(移設対象の生息環境場所の特定)

移殖前に、移殖工事数量の詳細を明確にするため、以下の条件(①～③)に留意し現地補足調査を実施する。具体的には本種の生息環境を探索し、事業地内における移殖対象箇所(見つけ採りの対象区域)とその面積を把握する。

①やや自然度の高い森林、スダジイ林やスダジイ林に近い二次林などの比較的自然度の高い森林を重点的に調査する。

※本種はやや自然度の高い森林の倒木下、適度に湿り気があり腐食部のフレークが赤みがかかった朽ち木、スダジイ林やスダジイ林に近い二次林などの比較的自然度の高い森林の林床落葉下に生息する。

②また、①付近の朽ち木についても調査する。

③移殖候補地の選定調査

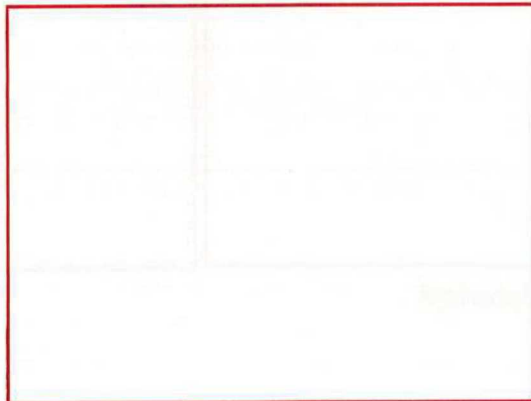
※事業地より影響範囲50m外側において、本種の生息環境箇所を探索し移殖地を決定する。この場合、移殖後の結果について、様々な要因からのリスクを分散するために、複数箇所を抽出する。

2) 移殖対象地における採取と運搬

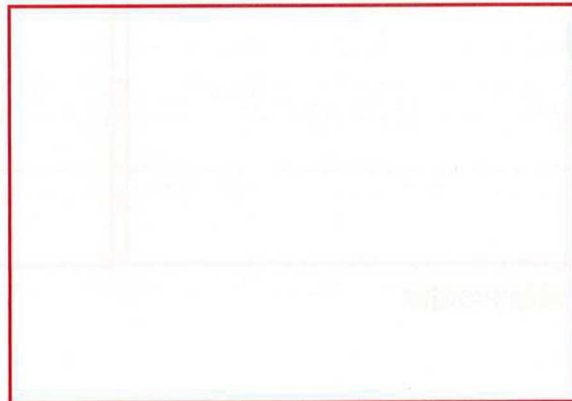
1) で把握した本種の生息環境を踏査し、見つけ採りにより個体を捕獲する。

3) 移殖先での放貝

移殖先において運搬した容器から () を樹皮下などに放つ。



樹皮下にいる個体



移動中の個体

写真 () の生態・生息環境

表 6.4-5(11) 捕獲移動の実施計画概要 ()

1. 移殖工事概要

対象動物を含む生息環境(落ち葉)を移殖適地へ移設する。
※本種は乾燥の影響を受けにくく適度に湿り気が保たれている林床環境に生息する。本種は肉眼での確認が困難な微小貝類であるため、生息環境である「過去の確認地点と、乾燥の影響を受けにくく適度に湿り気が保たれている林床環境」の林床に堆積した落ち葉や小枝を一緒に麻袋や土嚢袋に詰め、落ち葉と共に移殖対象動物を捕獲して移殖する。

2. 移殖の手順

1) 現地補足調査の実施(移設対象の生息環境場所の特定)

移殖前に、移殖工事数量の詳細を明確にするため、以下の条件(①~②)に留意し現地補足調査を実施する。具体的には本種の生息環境を探索し、事業地内における移殖対象箇所(生息環境移設の対象区域)とその面積を把握する。

①乾燥の影響を受けにくく適度に湿り気が保たれている林床環境をもつ森林、スダジイ林やスダジイ林に近い二次林などの比較的自然度の高い森林を重点的に調査する。

※本種は乾燥の影響を受けにくく適度に湿り気が保たれている林床環境、スダジイ林やスダジイ林に近い二次林などの比較的自然度の高い森林の林床落葉下に生息する。

②移殖候補地の選定調査

※事業地より影響範囲50m外側において、本種の生息環境箇所を探索し移殖地を決定する。この場合、移殖後の結果について、様々な要因からのリスクを分散するために、複数箇所を抽出する。

2) 移殖対象地における採取と運搬

1)で把握した生息環境の林床に堆積した「落ち葉」を麻袋や土嚢袋等に入れ移殖適地へ運搬する。

3) 移設先での敷設

移殖先において運搬した容器から対象動物を含む落ち葉を敷設する。



移動中の個体



成員の特徴

写真: () の生態・生息環境

表 6.4-5(12) 捕獲移動の実施計画概要 ()

1. 移殖工事概要

本種の生息環境であるシイ林域を中心に、個体の見つけ採りによる捕獲を可能な限り実施する。また、朽ち木と落ち葉の環境移設を実施する。

※本種の生態は不明な点が多いが、シイ林域では自然度の高い森林の林床に生息すると考えられる。また、冬期には活動がにぶり、朽ち木や落ち葉中に潜んでいる可能性もある。稚貝・幼貝は落葉下にも生息する。よって、朽ち木については()の朽ち木移設と同様の方法により移殖適地に移設する。さらに、落ち葉については、微小陸産貝類における環境移設と同様な手法により実施する。

2. 移殖の手順

1) 現地補足調査の実施(移設対象の生息環境場所の特定)

移殖前に、移殖工事数量の詳細を明確にするため、以下の条件①～②に留意し現地補足調査を実施する。具体的には本種の生息環境を探索し、事業地内における移殖対象箇所(生息環境移設の対象区域)とその面積を把握する。

①やや自然度の高い森林、スダジイ林やスダジイ林に近い二次林などの比較的的自然度の高い森林を重点的に調査する。

※本種はやや自然度の高い森林の倒木下、適度に湿り気があり腐食部のフレークが赤みがかかった朽ち木、スダジイ林やスダジイ林に近い二次林などの比較的的自然度の高い森林の林床落葉下に生息する。

②また、①付近の朽ち木についても調査する。

③移殖候補地の選定調査

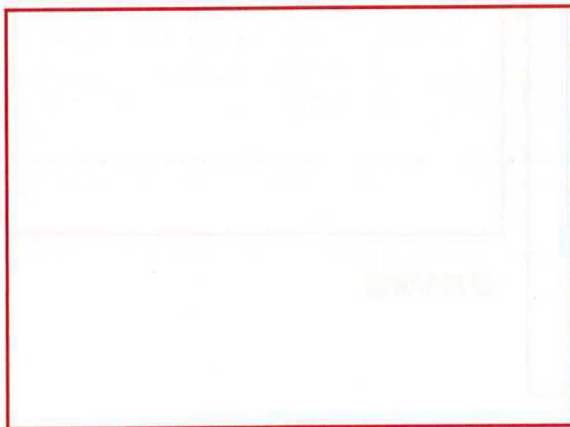
※事業地より影響範囲50m外側において、本種の生息環境箇所を探索し移殖地を決定する。この場合、移殖後の結果について、様々な要因からのリスクを分散するために、複数箇所を抽出する。

2) 移殖対象地における採取と運搬

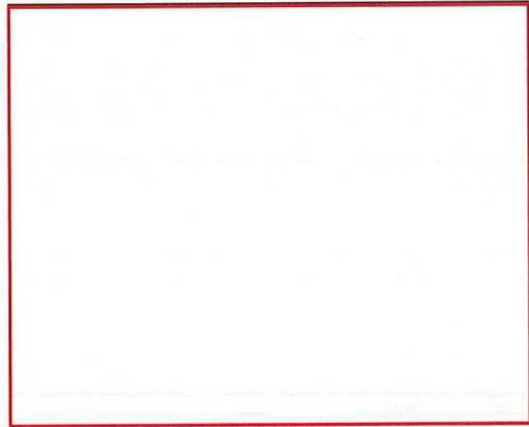
1)で把握した本種の生息環境を踏査し、見つけ採りにより個体を捕獲する。

3) 移殖先での放貝

移殖先において運搬した容器から()を林床に放つ。



移動中の個体



成員の特徴

写真: ()の生態・生息環境

表 6.4-5(13) 捕獲移動の実施計画概要 ()

1. 移殖工事概要

本種の生息環境であるハマイスビワなどの樹林を中心とした個体の見つけ採りによる個体捕獲を可能な限り実施する。また、落ち葉の生息環境移設を併用実施する(※微小陸産貝類の個体を含む生息環境移設と同時に実施する)。

※本種は、樹上性で、ハマイスビワのような樹幹にくぼみがある樹木を好んで生活する。また、落ち葉上にも生息している可能性もある。

2. 移殖の手順

1) 現地補足調査の実施(移設対象の生息環境場所の特定)

移殖前に、移殖工事数量の詳細を明確にするため、以下の条件(①~②)に留意し現地補足調査を実施する。具体的には本種の生息環境を探索し、事業地内における移殖対象箇所(見つけ採りの対象区域)とその面積を把握する。

①樹幹にくぼみがある樹木林、スダジイ林やスダジイ林に近い二次林などの比較的自然度の高い森林を重点的に調査する。

※本種はハマイスビワのような樹幹にくぼみがある樹木、常緑の樹木の葉裏、スダジイ林やスダジイ林に近い二次林などの比較的自然度の高い森林の林床落葉下に生息する。

②移殖候補地の選定調査

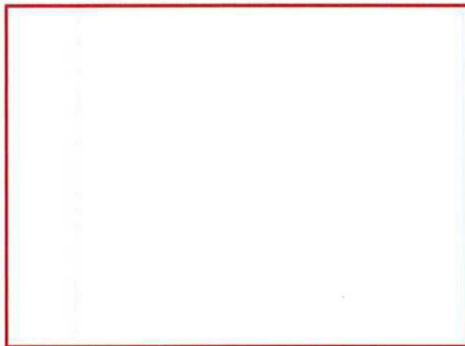
※事業地より影響範囲50m外側において、本種の生息環境箇所を探索し移殖地を決定する。この場合、移殖後の結果について、様々な要因からのリスクを分散するために、複数箇所を抽出する。

2) 移殖対象地における採取と運搬

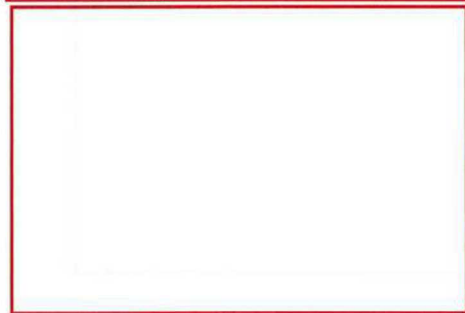
1) 把握した本種の生息環境を踏査し、見つけ採りにより個体を捕獲する。

3) 移殖先での放貝

移殖先において運搬した容器から () を樹皮の窪みなどに放つ。



本種の特徴



移動中の個体

写真 () の生態・生息環境

表 6.4-5(14) 捕獲移動の実施計画概要 ()

1. 移殖工事概要

本種の生息環境であるスダジイ林を中心とした個体の見つけ採りによる個体捕獲を可能な限り実施する。また、落ち葉の生息環境移設を併用実施する(※微小陸産貝類の個体を含む生息環境移設と同時に実施する)。

※本種はスダジイ林の林床や木の幹の地上近くなどで活動するといった生態を有している。また、落ち葉上にも生息している可能性もある。

2. 移殖の手順

1) 現地補足調査の実施(移設対象の生息環境場所の特定)

移殖前に、移殖工事数量の詳細を明確にするため、以下の条件①～②に留意し現地補足調査を実施する。具体的には本種の生息環境を探索し、事業地内における移殖対象箇所(見つけ採りの対象区域)とその面積を把握する。

①スダジイ林やスダジイ林に近い二次林などの比較的自然度の高い森林を重点的に調査する。

※本種はスダジイ林やスダジイ林に近い二次林などの比較的自然度の高い森林の林床や木の幹の地上近くに生息する。

②移殖候補地の選定調査

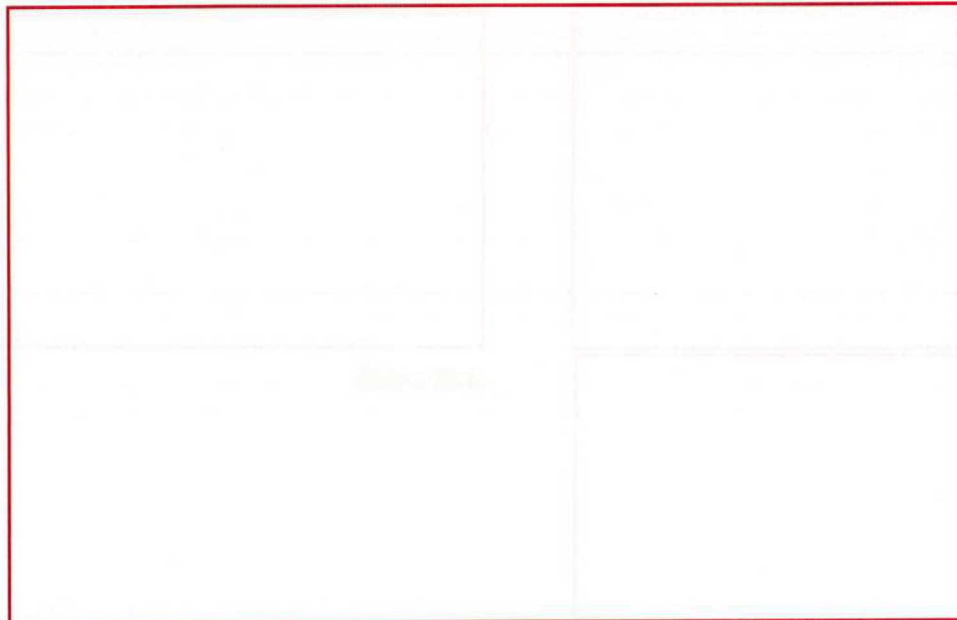
※事業地より影響範囲50m外側において、本種の生息環境箇所を探索し移殖地を決定する。この場合、移殖後の結果について、様々な要因からのリスクを分散するために、複数箇所を抽出する。

2) 移殖対象地における採取と運搬

1)で把握した本種の生息環境を踏査し、見つけ採りにより個体を捕獲する。

3) 移殖先での放貝

移殖先において運搬した容器から () をスダジイの根元などに放つ。



食事をする成貝と幼貝

写真 () の生態・生息環境

表 6.4-5(15) 捕獲移動の実施計画概要 ()

1. 移殖工事概要

本種の生息環境であるやや自然度の高い森林の林床の倒木下や落葉下を中心に、見つけ採りによる捕獲を可能な限り実施する。また、朽ち木と落ち葉の環境移設を実施する。
 ※本種は、地上性で、やや自然度の高い森林の林床の倒木下や落葉下に生息するといった生態を有している。このため、このような環境を中心に、見つけ採りによる捕獲を可能な限り実施する。また、冬期には活動がにぶり、朽ち木や落ち葉中に潜んでいる可能性もある。よって、朽ち木については () の朽ち木移設と同様の方法により移殖適地に移設する。さらに、落ち葉については、微小陸産貝類における環境移設と同様な手法により実施する。

2. 移殖の手順

1) 現地補足調査の実施(移設対象の生息環境場所の特定)

移殖前に、移殖工事数量の詳細を明確にするため、以下の条件(①~③)に留意し現地補足調査を実施する。具体的には本種の生息環境を探索し、事業地内における移殖対象箇所(見つけ採りの対象区域)とその面積を把握する。

①やや自然度の高い森林、スダジイ林やスダジイ林に近い二次林などの比較的的自然度の高い森林を重点的に調査する。

※本種はやや自然度の高い森林の林床の倒木下や落葉下、スダジイ林やスダジイ林に近い二次林などの比較的的自然度の高い森林の林床落葉下に生息する。

②また、①付近の朽ち木についても調査する。

③移殖候補地の選定調査

※事業地より影響範囲50m外側において、本種の生息環境箇所を探索し移殖地を決定する。この場合、移殖後の結果について、様々な要因からのリスクを分散するために、複数箇所を抽出する。

2) 移殖対象地における採取と運搬

1)で把握した本種の生息環境を踏査し、見つけ採りにより個体を捕獲する。

3) 移殖先での放貝

移殖先において運搬した容器から () を林床に放つ。



移動中の個体



死貝

写真： () の生態・生息環境

(b) 落葉移動

地表面に潜む などの微少な陸産貝類の生息環境として適していると考えられた N-4.1 の事業実施区域内にある落葉及び落枝については、袋詰めした上で移動先へ移動を行い、移動先となる周辺の樹林内に敷設した。



写真：落葉の移動状況

(c) 朽ち木移動

朽ち木の中に潜む昆虫類の生息環境として適していると考えられた N-4.1 の事業実施区域内にある朽ち木については、周辺の樹林内に移動した。大径木については重機を使用して配置を行った。



写真：朽ち木の移動状況